

問1 縄文時代につくられた素焼きの人形で、豊かな収穫や病気の回復、魔除けなどを祈るために用いられたとされる遺物を何といいますか。 (2026年 熊本県公立入試 類似)

1. 埴輪
2. 銅鐸
3. 石包丁
4. 土偶

問2 約1万以上続いた縄文時代の生活スタイルと、そこで使われた道具の関係について、正しい説明はどれですか。 (2024年 熊本県公立入試 類似)

1. 青銅器や鉄器が普及したことで、大規模な戦争や移動生活が繰り返された
2. 磨製石器や弓矢、土器などが使われ、自然環境に合わせた定住生活が行われた
3. 文字が発明されたことで、法律や契約に基づいた高度な都市生活が営まれた
4. 大型の石造建築が造られ、それらを装飾するために精巧な土器が発達した

問3 縄文時代の遺跡である貝塚の周辺から発見される、表面に縄目などの特徴的な文様が施された道具について、その主な使用目的を説明したものとして最も適切なものはどれですか。 (2019年 群馬県公立入試 類似)

1. 亡くなった人を埋葬する際に、副葬品として納める祭祀専用の道具として用いられた。
2. 採取した木の実などの食料を煮炊きしたり、保存したりするために用いられた。
3. 収穫した稲を長期間蓄えるための、貯蔵専用の器として主に用いられた。
4. 大陸から伝わった青銅器や鉄器を加工するための、高温の炉として用いられた。

問4 日本の古代文化における「土偶」と「はにわ」の違いについて、時代背景と目的の観点から説明したものとして正しいものはどれですか。 (2026年 千葉県公立入試 類似)

1. 土偶は権力者の死を悼むために古墳の内部に納められたが、はにわは狩猟の成功を願って森の入り口に置かれた。
2. 土偶は写実的な人物像として奈良時代に完成したが、はにわは縄文時代に土器の蓋として実用的に使われていた。
3. 土偶は弥生時代に大陸から伝わった青銅器の一種であるが、はにわは飛鳥時代に仏教とともに伝わった石像の技術で作られた。
4. 土偶は縄文時代に作られ、豊穡や魔除けを祈る呪術的な道具であったが、はにわは古墳時代に作られ、古墳を飾り立てるためのものであった。

問5 ある中学生が地元の歴史博物館で調べた内容をまとめた報告書の中で、「市内で発掘された、表面に縄を転がしたような模様がある土器」について記述しています。一万数千年前から紀元前数世紀まで続き、このような土器を使って狩猟・採集・漁労を主とする生活が行われていた時代を何といいますか。 (2016年 富山県公立入試 類似)

1. 縄文時代
2. 旧石器時代
3. 古墳時代
4. 弥生時代

問6 山形県の西ノ前遺跡から出土した「縄文の女神」に代表される、縄文時代に作られた土製の人形について、その名称と当時の人々が込めた願いの組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2019年 山形県公立入試 類似)

1. 勾玉 ― 魔除けや身分を示す装飾品とするため
2. 埴輪 ― 亡くなった王の権威を示し、供養するため
3. 土偶 ― 豊かな収穫や安産を祈るため
4. 銅鐸 ― 稲作の豊作を願う祭りの道具とするため

問7 約1万年前に氷期が終わり、日本列島の周辺環境が変化した際の様子について説明した文として、適切なものを選択してください。 (2019年 千葉県公立入試 類似)

1. 気候が温暖になり、海面が下降したことで沿岸部に広大な平野が形成された
2. 大規模な地殻変動が起こり、日本列島は大陸から切り離されて島国となった
3. 気候が寒冷になり、海面が下降したことで日本列島はユーラシア大陸と陸続きになった
4. 気候が温暖になり、海面が上昇したことで日本列島は現在の姿に近づいた

問8 縄文時代に見られる「土偶」と、後の古墳時代に見られる「埴輪」を比較した説明として、正しいものはどれですか。 (2019年 山形県公立入試 類似)

1. 土偶は、弥生時代に稲作が伝わった際に祭祀用として広まったが、埴輪は縄文時代に集落の守り神として置かれた。
2. 土偶は、大陸から伝わった金属器の影響を受けて作られたが、埴輪は日本独自の土器文化から発展した石製品である。
3. 土偶は、古墳の内部に副葬品として納められたが、埴輪は住居跡から発見されることが多く、日常的な食器として使われた。
4. 土偶は、豊かな収穫や安産などのまじないのために縄文時代に作られたが、埴輪は古墳の主の供養や魔除けとして古墳時代に作られた。

問9 青森県に位置し、大型掘立柱建物跡などの発見によって縄文時代の定住生活の実態を明らかにした、日本最大級の集落跡は何か。 (2025年 北海道公立入試 類似)

1. 岩宿遺跡
2. 三内丸山遺跡
3. 吉野ヶ里遺跡
4. 登呂遺跡

問10 北海道にはその土地の自然環境や地形に由来する地名が多く残されています。例えば、世界自然遺産にも登録されている「知床（しれとこ）」という地名は、ある先住民族の言葉で「大地の先」を意味する「シリエトク」という言葉に由来しています。この独自の言語や文化を持ち、北海道や千島列島などに古くから住んでいる民族の名称を答えなさい。 (2024年 山形県公立入試 類似)

1. 琉球民族
2. アイヌ民族
3. 渡来人
4. 蝦夷（えみし）

問11 縄文時代に作られた土偶の中には、わざと体の一部を壊した状態で発見されるものがあります。このような特徴から推測される、土偶が作られた目的として最も適切なものはどれですか。 (2023年 香川県公立入試 類似)

1. 大陸から伝わった高度な彫刻技術を模倣しようとして、失敗したものを廃棄した残骸。
2. 集落間の争いにおいて、倒した敵の姿を土偶に投影し、戦勝を記念して破壊する儀礼用。
3. 土器を作る技術が未熟であったため、焼成の過程で自然に壊れてしまうことを前提とした観賞用。
4. 病気や怪我のある部分を壊すことで、その痛みを土偶に引き受けてもらおうとする身代わりの願い。

問12 縄文時代の遺跡から数多く出土する、主に女性をかたどったとされる土製の像を何と呼びますか。自然の豊かな実りや、病気・けがの回復を願うまじないの儀式に使われたと考えられているものを選びなさい。 (2023年 徳島県公立入試 類似)

1. 埴輪
2. 土偶
3. 石包丁
4. 銅鐸

問13 青森県にある三内丸山遺跡の調査によって明らかになった、縄文時代の人々の生活や社会の様子として最も適切な説明を選びなさい。 (2023年 徳島県公立入試 類似)

1. クリなどの植物を栽培したり、遠方の地域と黒曜石やヒスイを交易したりして、長期間の定住生活を送っていた。
2. 大陸から伝わった稲作を基盤とし、集落の周囲に深い堀を巡らせて外敵の侵入を防ぐ生活を送っていた。
3. 金属器を用いた農耕が普及し、王の権威を示すために巨大な前方後円墳を築造する社会を形成していた。
4. ナウマンゾウやヘラジカなどの大型動物を狩るため、特定の拠点を持たずに獲物を追って移動を繰り返していた。

答え合わせ・解説

問1	答え 4 土偶	縄文時代につくられた素焼きの人形は土偶と呼ばれます。豊かな収穫や魔除けなどを祈る道具として用いられました。古墳時代につくられた埴輪や、弥生時代につくられた銅鐸との違いを押さえることが大切です。
問2	答え 2 磨製石器や弓矢、土器などが使われ、自然環境に合わせた定住生活が行われた	縄文時代は、氷河期が終わり温暖になった環境に適応した時代です。すばしっこい小動物を狩るための弓矢や、木の実を加工するための磨製石器、そして食料の加工・保存を可能にした土器など、新しい道具が登場したことで、一定の場所に留まって暮らす定住生活が可能になりました。
問3	答え 2 採取した木の実などの食料を煮炊きしたり、保存したりするために用いられた。	縄文土器の出現は、それまで生で食べていた食料を「煮炊き」することを可能にしました。これにより、硬い木の実やアクのある植物も食用にできるようになり、食料の「保存」も容易にするなど、当時の生活を大きく安定させました。稲作が本格化し、貯蔵用としての機能がより特化していくのはのちの弥生時代のことです。また、祭祀に使われることもありましたが、主な用途は生活に密着した調理や保管でした。
問4	答え 4 土偶は縄文時代に作られ、豊穰や魔除けを祈る呪術的な道具であったが、はにわは古墳時代に作られ、古墳を飾り立てるためのものであった。	縄文時代の土偶は、自然の恵みを祈る宗教的な役割を持っていました。これに対し、はにわは古墳時代の巨大な墳墓（古墳）に伴うもので、権力者の葬儀や古墳の区画を示すために立てられました。両者は見た目が似ている場合がありますが、狩猟採集中心の縄文時代と、大規模な身分差が生じた古墳時代という社会構造の違いを反映しています。
問5	答え 1 縄文時代	氷河期が終わり、気候が温暖になったことで、日本列島では弓矢を用いた狩猟や豊かな海産物をとる漁労、木の実の採集が盛んになりました。この時代に使用された、表面に縄目の文様がある土器は「縄文土器」と呼ばれ、食料を煮炊きしたり保存したりするために活用されました。
問6	答え 3 土偶 ― 豊かな収穫や安産を祈るため	縄文時代には、女性の姿を象った土偶が数多く作られました。これらは、自然の恵みによる豊かな収穫や、新しい命の誕生（安産）を願う呪術的な道具として使われたと考えられています。選択肢にある埴輪は古墳時代、銅鐸は主に弥生時代に関連する遺物であり、時代や目的が異なります。
問7	答え 4 気候が温暖になり、海面が上昇したことで日本列島は現在の姿に近づいた	約1万年前に氷期が終わり、地球全体の気候が温暖化しました。その結果、大陸の氷河が溶けて海面が上昇し、それまでユーラシア大陸と地続きだった部分が海に沈んだことで、日本列島は現在のような島国の姿になりました。この環境の変化が縄文時代の始まりに大きく寄与しています。
問8	答え 4 土偶は、豊かな収穫や安産などのまじないのために縄文時代に作られたが、埴輪は古墳の主の供養や魔除けとして古墳時代に作られた。	土偶と埴輪はどちらも人型の土製品ですが、時代と役割が大きく異なります。土偶は縄文時代の狩猟・採集社会において、生命の誕生や自然の恵みを祈る宗教的な道具として機能しました。一方、埴輪は古墳時代に現れ、王や有力者の墓である古墳を飾り、その聖域を守る役割や、葬送の儀礼のために立て並べられました。
問9	答え 2 三内丸山遺跡	青森県で発見された三内丸山遺跡は、縄文時代における最大級の集落跡であり、当時の人々が一定の場所に長期間とどまる「定住」を行っていたことを示す重要な遺跡である。佐賀県にある弥生時代の吉野ヶ里遺跡と混同されやすいが、時代背景と地域（青森）を区別して理解することが重要である。
問10	答え 2 アイヌ民族	北海道や樺太、千島列島などの先住民族であるアイヌの人々は、自然界のあらゆるものに魂が宿ると考える独自の文化を育んできました。彼らの言語であるアイヌ語は、北海道の多くの地名の語源となっており、「知床」が「シリエトク（大地の突き出た先）」に由来するほか、札幌や小樽などもアイヌ語に漢字を当てはめた地名として知られています。
問11	答え 4 病気や怪我のある部分を壊すことで、その痛みを土偶に引き受けてもらおうとする身代わりの願い。	土偶の多くが女性を模しているのは、新しい生命を生み出す女性の力が、大地の豊かな実りと結びつけられていたためと考えられています。また、出土する土偶の多くが破損している理由については、自分の病気や怪我の場所と同じ部分を壊すことで、回復を祈る「身代わり」としての呪術的な儀式に使われたという説が有力です。これは当時の人々にとって、土器作りや土偶作りが生活に密着した切実な信仰の一部であったことを示しています。
問12	答え 2 土偶	縄文時代には、自然の恵みを祈ったり、病気やけがの回復を願ったりする儀式が行われていました。その際に使われたのが土偶であり、その多くが女性の姿を模していることから、生命の誕生や収穫への祈りが込められていたと推測されています。これに対し、埴輪は古墳時代の古墳の周囲に並べられたものであり、時代が異なります。
問13	答え 1 クリなどの植物を栽培したり、遠方の地域と黒曜石やヒスイを交易したりして、長期間の定住生活を送っていた。	三内丸山遺跡では、大型の掘立柱建物や膨大な量の土器が見つかっており、縄文時代の人々が同じ場所に定住して高度な社会を築いていたことが判明しました。クリの栽培や、北海道・新潟など遠隔地との交易の証拠も見つかっており、従来の「狩猟採集のみで移動を繰り返す」という縄文時代のイメージを大きく覆しました。稲作や環濠集落は弥生時代、前方後円墳は古墳時代、大型動物の追跡は旧石器時代の特徴です。